

乗雲

寺報
第89号

H26.3.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

しもんしゅつゆう 四門出遊

お釈迦様の出家の動機として知られる「四門出遊」という説話があります。釈迦族の王子として何不自由なく暮らしていたシツダールタ（後のお釈迦様）は生まれてすぐに母親が亡くなります。幼少は物思いに耽ることが多く、考え込む性格でした。あるとき、父である王様に門の外へ出ることを願いました。

最初は東の門から、途中今まで見たことの無い、見苦しい老人に出会います。生身の人間であるから老いは誰でもやって来る。その哀れな姿に愕然とし城に戻る。二度目は南の門から外へ出る。今度は病気で苦しみ、道端で倒れている人の姿を見る。病の苦しみは誰でも逃れられないと悟る。三度目は西の門より出て、死者の葬式、嘆き悲しむ人に出会う。いずれはみな死ぬべきものと教えらる。この三つの門で「老・

病・死」の三苦は生きていく以上避けられないものであるが、誰もその自覚が無く暮らしていることに驚かされる。最後の外出は北の門からでした。その途中で、袈裟をつけ、ゆつくりとした足取りで托鉢して歩く修行者と出会う。その何とも落ち着いて清々しい姿に感動を覚える。



釈迦苦行像

この「四門出遊」で無常を観じ、「生」を含めた「生老病死」の四苦という人生の大きな問題の解決のため、自らも出家の決意をされた。生まれたが故にいずれやってくる、老・病・死をしっかりと受け

止めましょう。

お釈迦様のご生誕は四月八日、お悟りをひらかれた（成道会）日が十二月八日、そして二月十五日（旧三月十五日）はお釈迦様のご命日です。その尊い教えは今に至り受け継がれています。



●二度目の旅立ち

三男恭真は二月十八日大本山永平寺へ修行に出ました。門前地藏院で二泊し、古参和尚さんから威儀を整えてもらい、二十一日に上山しました。冬は雪が深く寒さ厳しい曹洞宗の大本山です。全国から百名近くが道を求めて新しく入ります。四国の瑞應寺僧堂で三年半修行していましたが、今度は長男、一男と同じ永平寺です。今頃一番苦しい時期でしょう。修行の無事を祈ります。

平成二十六年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
五十回忌	昭和四十年
百回忌	大正四年

*今年（平成二十六年）の年回忌表です。正当の各家には昨年十一月に通知しています。

*日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌となる。